

第5学年「社会」学習指導案

授業者 佐藤 孔美

2月21日（木） 4階A室 9：00～9：40

1 題材名 「外国人労働者問題について考えよう①」

2 題材について

(1) 【場面設定】：「時事的な社会事象について、他者との差異や葛藤を生じる問題」を扱う内容

外国人労働者無くしては成り立たない日本の社会で、今後外国人労働者が益々増えていく日本の社会のあり方について考えよう

(2) 人口減少問題と外国人労働者問題

日本は今、2006年をピークに人口減少に向かっている。2018年3月には「国立社会保障・人口問題研究所」が、日本の総人口は2045年までに1億221万人となり、2060年には8674万人にまで落ち込み、65歳以上の割合は4割までになると公表した。このような深刻な人口減少問題は、今や日本の農業、介護、建設、造船、宿泊、商業等様々な業種で労働者不足を引きおこし、日本経済は外国人労働者無しには成り立たないのである。外国人労働者が就労する職業の多くが若者に敬遠される現業職である。その結果、地元には低賃金の職しかないと思切りの若者は都市部に流出し、地域社会はさらに衰退の一途をたどるといふ悪循環に陥っていく現状が問題視されている。日本政府が決定した入管法は今後の日本の未来を真摯に考えた政策とっていいのだろうか。農業単元で長野県川上村の技能実習制度を活用した外国人労働者の問題に端を発し、工業や介護の分野でも今や多数の外国人労働者の受け入れをしていることを子どもたちは学んできた。それらを総合的に鑑み、人口減少から生じる様々な問題に対してこれからの日本の在り方を、子どもたちと共に考えていきたい。そして、子どもたちにとって自分が生きる未来が少しでも希望のもてる社会であるような話し合いになっていくことを願う。

(3) 多様な「判断の規準（基準）」から様々な立場の人が幸せになれるような「判断の規準（基準）」

世の中には様々な立場による様々な「判断の基準（規準）」が存在する。その「判断の基準（規）」のぶつかり合いの中で、妥当性のある社会認識をふまえた、市民として必要な「判断の規準（基準）」を生み出していくことを大事にしたい。様々な立場の人が幸せになれるような「判断の規準（基準）」とはどのようなものなのか、子どもたちと共に考えてみたい。

3 学習指導計画（全9時間）

第一次 「人口減少問題について」

第二次 3時～6時「今後外国人労働者が益々増えていく日本の社会のあり方について考えよう」

4時：日本の介護の分野における外国人労働者の現状について知り、資料等から自分の考えを書く。

5時：農業・工業・介護等の分野では、外国人労働者無しではもう成り立たない現状について考える。

6時：今後外国人労働者が益々増えていく日本の社会のあり方について自分の考えを書き、話し合う。

第三次 7時～9時「これからの日本は、外国人労働者に3Kの仕事任せしていく国でいいのだろうか。」

4 本時について（6時間目）

(1) 本時のねらい 介護の分野で、外国人労働者が今後6万人増えることについて「判断の規準（基準）」に基づいて自分の考えを述べたり、友達の考えに付け足したり反論したりする。

(2) 予想される本時の展開

主な学習活動と子どもの姿	留意点
<p>○本時の課題の確認【介護の分野で、外国人労働者が今後6万人増えることについて考えよう】</p> <p>【増える方が良い】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・互いの国際貢献に繋がり、外国人労働者も日本の高い技術を得られる。日本も人手不足なのだから、外国人労働者にも日本にもプラスである。 <p>【増えるのは良くない】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・外国人労働者は他の国でもやっている。もし、今後日本に来るのを外国人が選ばなくなったら、日本経済は大打撃を受けることが予想される。 ・将来的なことを考慮すると、日本人の労働者を増やしていくことこそ優先課題。 ・3Kの仕事ばかり外国人の方に任せることに併せて、日本の未来を考えるべき。 	<ul style="list-style-type: none"> ・具体的な「判断の基準」から概念化された「判断の規準」に価値づけられるよう促し助言をする。 ・重要視した「判断の規準（基準）」を基に自分の考えを書かせる